第３学年　英語科学習指導案

日　時　平成１２年９月８日　金曜日
学　級　３年〇組（男子13、女子20、合計33名）
指導者　北上市立上野中学校教諭　高橋　明浩

1　単元名　　Unit 4　A Pajama Party

2　単元設定の理由

◎言語材料・言語活動面

新出事項として受動態を学ぶ。be動詞は１学年で現在形を、２学年で過去形をそれぞれ学んでいる。また、動詞の過去分詞については２～３学年の現在完了で学習済みである。そのため、生徒から見れば「現在完了形（have/has ＋ 過去分詞）のうち、have/hasの部分をbe動詞に置き換えるだけ」で「～され（てい）る」という意味になるということを集中して覚えればよい、ということになる。英語に対する意欲を盛り上げるために、指導者がいろいろな場面を考え、機能性に富んだ多くの例文を実際に言わせたり使わせたりして、その有用性に気づかせることが大切であると考える。その一方で、生徒は３学年であることから、文法用語も必要に応じてきちんと使用していく必要があると考える。

◎題材内容面

本単元では、受動態の導入の話題として「手紙の旅」をStarting　Outで取りあげた。いろいろな場面で「手紙が～される」という、絵を含んだわかりやすい導入材料となっている。また、欧米人の文化や習慣の一つとして、“A Pajama Party”がストーリー形式で取り上げられている。アメリカでは中学生がアルバイトをしていること、パジャマパーティの様子などについて言及している。生徒により多くの知識を与えるため，これらの中身を膨らませて指導していきたい。ただし、生徒指導上の理由から、パジャマパーティを安易に説明するとまねをする生徒がでてくることから、このパーティは親の全責任のもとで行われている、ということも一言付け加えておく必要があろう。

3　生徒の実態と対策

３年〇組は、学級全体の雰囲気として明るく元気がよく、指導者の問いに対する反応も多いことから授業はやりやすい。学年の中では、平均点だけを見れば決して上位とはいえないが、（この学年の傾向として）上位の生徒が多く、下位の生徒でも何とか理解しようと努力している。この学級では、生徒が助け合う場面も比較的多く見られ、学級全体として暖かさが感じられる。

授業のレベルとしては、基礎・基本の徹底を意識して、下～中位の生徒を対象に指導しているつもりであるが、作業の速い上位の生徒が時間をもてあまし、私語をするなどの問題が見られた。そこで、書くなどの作業をさせる場合には、上位の生徒に対するプラスアルファの課題（ワークのページを指示するとか、上位生徒用の発展問題をワークシートにつけるなど）を、「終わった人はこれをやってください」という指示とともに与えることにしている。課題の解答をする場合であっても、一般生徒向けは丁寧に答え合わせをするが、発展的なものは、サラッと流しても上位の生徒は理解しているようである。

４、本校の研究主題とのかかわり

本校の今年度の研究主題は、『物事を深く考え、表現できる生徒の育成　～総合的な学習をはじめとする全教育活動を通して～』、端的に言うと「生徒の思考力と表現力をどう育てるか」である。

これを英語の授業にあてはめて考えると、思考力育成のためには「こんな場面ではどんな英語を言えばいいのか」「この発話をしたときの、発話者の意図は何か」「なぜこの英文はこの形になっているのだろうか」などの問いかけが必要である。この問いかけによって、生徒はただ覚えるだけの英語から、身につけるための英語として授業を受けてくれるのではないかと考える。

一方、表現力育成のためにいつも取り組んでいることは、授業始めのSmallTalkである。生徒には常々「即問即答」を心がけさせ、どうしても英語でいえない場合には日本語で答えさせることも少なくないが、その内容が既習事項である場合などは（カラクリTVのセイン＝カミュよろしく）“English, please.”と突っ込みを入れることとしている。また、パタンプラクティスにおいて「こういうときは何て言えばいいかな？」というcueによっていろいろな場面を与えて、多くの英文を言わせることにしている。書く活動については、プリントによるものが多いが、少し不足がちかなという気がする。

５、単元の目標

◆言語材料・言語活動面

・受動態（平叙文・疑問文・否定文の現在・過去）について理解し、それを使って場面に応じた適切な英文で表現することができる。

・had to ～を理解し、いくつかの英文で表現することができる。

◆題材内容面

・「手紙の旅」を通して、一通の手紙が発信者によって書かれてから、受信者によって読まれるまでの流れを理解することができる。

・“A Pajama Party”を通して、パジャマパーティをすることになったいきさつ、及びパーティの準備段階、さらにパーティに参加している女の子たちの会話の内容と雰囲気を理解することができる。

６、指導計画（10時間）

・Starting Out　　３.５時間（「一般動詞のパターンと意味」プリントを含む）

・Listen & Speak　　２時間

・Read & Think　　３.５時間（本時２.５／３.５）

・Let's Try & Write　０.５時間

７、本時の指導

⑴　本時の目標

〇Small Talkでの教師の質問に即答することができる。

〇P.31の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できる。

〇パジャマパーティをしている女の子たちの会話の内容と雰囲気を理解することができる。

〇発話者の気持ちを込めて音読することができる。

⑵　本時の目標（下位行動目標）

⑥　本文を、場面に即して音読できる。

⑤　本文の内容について書かれた英文に対し、英語で答えられる。→Q&A

④　本文の内容について述べられた英文を聞いて、その正誤が判断できる。→TFチェック

③　グループ内で教え合ってプリントを解くことで、本文の内容が分かる。

②　PCを見ながら本文を聞き、５人の女の子の会話内容のポイント２つを理解できる。

①　新出単語の意味と発音が分かる。

⑶　指導の構想

本時では、細かく段階を踏んで本文の理解をめざし、最終的には５人の女の子の楽しそうな会話内容を理解し、できればそれが伝わるように音読できるまでをねらう。作業の場面では（いつも通り）努めて教え合い学習を行わせ、全く活動しない生徒がいないような工夫をしていきたい。さらに、パジャマパーティとは一体どんなものなのか、具体的に実現可能であるか、等の文化的側面について考えさせたい。

⑷　本時の展開

段階	学　習　内　容	学　習　活　動	時間	支援上の留意点
導入	1 あいさつ	・元気よくあいさつをする。	1	
	2 Small Talk	・教師の、下の英問に英語で即答する。 -What time did you get up this morning -How do you spell your name？ -Do you know how to use a computer？	9	・一つの質問は、数名の生徒にする。 ・教師の場合をヒントとして与える。 ・できれば、追加の質問をする。
展開	3 新出単語の導入	・フラッシュカードを見て、教師の後について発音する。		・発音記号を活用させる。 ・フラッシュカード使用 ・トラップを設ける。
	4 p.30の内容確認	・教師の簡単な説明を聞き、前時に学習した内容を思い出す。		・教科書使用
	5 p.31の本文の理解	・CDを聞いて、教師が与えたポイントについて聞き取る。 ・ワークシートの、日本語の空欄を埋める。 ・教師の問いに答えながら解答する。 ・パジャマパーティについて、一体どんなものなのか説明を加える。 ・TFチェックで聞き取りながら内容を確認する。		・CDリピーターとPC使用 ・聞き取り段階では教科書を閉じる。 ・教科書使用 ・助け合いを推奨する。 ・上位の生徒はQ&Aに取り組む指示。 ・Q&Aは答を簡単に言うにとどめる。
	6 p.31の音読練習	・教師の後について音読する。		・１回目はphraseごとに日本語の意味を与えながら、２回目はもう少し長めに区切って、３回目は一文ずつ。 ・３回目は、発話者の気持ちを込めて音読させたい。 ・時間的余裕があったらRead & Look Upもやってみたい。
まとめ	7 ゲーム	・Word Chain（英語のしりとり）		・２周目までは板書、３周目からは板書なしで行う。
	8 次時の予告			
	9 あいさつ			

⑸　評価の観点

・Small Talkにおいて、教師の質問に即答することができたか。
・P.31の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できたか。
・パジャマパーティをしている女の子たちの、会話の内容と雰囲気を理解することができたか。
・発話者の気持ちを込めて音読することができたか。